

長畝ふるさと通信



【2025年2月号】

■ 久々の大雪…春遠し

2月の寒波は久々に佐渡にも大雪を積もらせました。佐渡金山のある相川地区では8日、午前1時までの12時間降雪量が38センチを記録し、23年ぶりに観測史上最大を更新したそうです。我が家でも屋根の積雪は50センチにも達し、車を出すのに一苦労したほどです。田んぼの雪も積もっては解け積もっては解けを繰り返し、例年なら完全に乾いている田



面が湛水状態のまま残っており、3月からの耕耘作業や畔塗作業に支障が出そうです。温暖化に対処するためにいつもより前倒して作付け計画を立てていましたが、むしろ遅れそうです。参った、参った。

■ 適正価格とは？



備蓄米放出もコメ不足は解消されず、依然としてコメの高値は続いています。平成21年、当時の石破農水大臣（現首相）は減反政策を批判し、生産調整緩和を進言していたそうですが、あれから14年経った今でもコメ農政は変わっていません。年間に予測されるコメ消費量ギリギリの作付けしか許さず、補助金漬けでコメ生産者を生かさず、殺さずコントロールしています。今回の騒動はJA全農対民間のコメ争奪戦による生産と流通のバランスの崩れが原因ですが、一方では、コメ農家に対する「適正価格」はどれだけなのかに関心が高まっています。一部では「コメ農家は時給10円」という衝撃的な数字も出ており、今までのコメ価格が安すぎたことを訴えています。とは言え、現在のような5kg精米4,000円では消費者が納得しないのも事実です。コメ生産者の規模はまちまちで一概に持続可能な再生産価格をいくらだと決めることはできませんが、消費者も安定してコメを食べていくための「適正価格」についてみんなで考えられるような場が必要だと思います。食糧の安定供給は国の根幹であり、経済の論理に丸投げするものではありません。3月末には東京で「令和の百姓一揆」が企画され、デモ行進や集会が開催されるそうです。外国ではデモが当たり前のように行われますが、日本人は我慢強いのでしょか…ボクは行きませんが…